

第6回 向日市子ども・子育て会議 議事要点録

○日 時 平成27年3月26日（木）午後1時30分から

○場 所 向日市民会館3階 第5会議室

○出席者 （委員）

安藤和彦委員（会長）、今井弥生委員、大嶋一恵委員、風谷千賀子委員、
小西麻子委員、櫻井成委員、四方貴之委員、高山紀公子委員、田中久美子委員、
田中益一委員、津田陽委員、花安肇委員、山近勤委員、宮地健一委員
（50音順）

（事務局）

子育て支援課：植田部長、鈴木次長、坂野課長、紺野子育て支援係長、
里見保育係長

生涯学習課：野田部長、山根次長、清水次長、高岸係長

○欠席者 （委員）

青木委員、岡崎委員、川原委員、田中利和委員、築山剛委員、三沢委員

○内容 向日市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

（主な意見）

- 私立幼稚園が認定こども園に移行するとしたら、市の財政負担は増える。財政的
的な試算はしておいたほうがよい。
- アンケートで、子どもが病気の時などに休んで子どもをみたいという回答が多
かったとのことだが、それに応じて企業への働きかけや広報体制を変えていくとい
う視点がないのはなぜか。企業に対しての働きかけをどういう風にしていくのか。
休ませない雰囲気職場の中にある。子どもを育てるのは全員の問題だから休ませ
ようという雰囲気作りは、推進すべきことの一つとして挙げる方がよいと思う。
- 企業の意識は重要な部分だ。働き続けられるような経済的な側面と、地域や家庭
の支えといった人の側面、その両輪が揃うような広報、雰囲気作りは企業にも大事
なところであり、是非ともそういう観点での政策を取っていただきたい。
- 道路を使いやすくするとか、環境整備を行うというインフラ面だけではなく、地
域住民の意識が子どもを育てるといような文言がどこかに欲しい。自分のところ
に子どもがいない人は、子育てに関して冷たいところがある。子育て支援に向けた
社会全体の意識の向上が必要であり、子どもは社会全体で育てなければならないと
いうことを、地域住民が意識できるような文言を入れてほしい。
- 少子化対策は、今までのやり方ではだめで、絆づくりが大切だ。例えば挨拶運動
でもよいし、お金を使わずに頭を使ってできることはある。昔と違って、年配者が
子どもに対する愛情を持っていない。若い母親が一人で子どもを育てなければなら
ない状況が生じている。行政がどう入るか、NPO等をどう活用するかが問題だ。
- 幼保、幼小、保小の連携といったことが言われるが、その一方で、放課後児童健
全育成事業は置き去りにされている感があり、取り組みが遅れている。
- 使われていない公園が多くある。竹の径も、子どもや若い母親には向かない。ア
ンケートをとって公園を整備していったらどうか。

- 子どもたちの長期の休みのときに公園の工事をしているのはなぜか。砂場も「調整中」で使えない。草が生い茂っている公園もある。新しい公園ではなく、子どもと子育て世帯の視点が欲しい。また、もっと地域のお年寄りとの接点があるとよい。
- 役所は縦割りになりがちで、横の連携が必要だ。横の連携の中で、市民の子育てに対する意識を向上させていくことが大切である。

以 上